

歌舞伎十八番 『勸進帳』 山伏問答

富樫 勸進帳聴聞の上は、疑いはあるべからず、さりながら、事のついでに問い申さん。世に仏徒の姿さまざまあり。中にも山伏はいかめしき姿にて、仏門修行は訝しし、これにも謂れあるや如何に。

弁慶 おおその来由いと易し。それ修験の法といッば、胎藏金剛の両部を旨とし、嶮山惡所を踏み開き、世に害をなす悪獸毒蛇を退治して、現世愛民の慈悲を垂れ、或いは難行苦行の功を積み、悪靈亡魂を成仏得脱させ、日月清明、天下泰平の祈祷を修す。かるが故に、内には慈悲の徳を納め、表に降魔の相を顕し、悪鬼外道を威服せり。これ神仏の両部にして、百人の数珠に仏道の利益を顕す。

富樫 シテ又、袈裟衣を身にまとい、仏徒の姿にありながら、額に戴く兜巾は如何に。

弁慶 即ち、兜巾篠懸は、武士の甲冑に等しく、腰には弥陀の利剣を帯し、手には釈迦の金剛杖にて大地を突いて踏み開き、高山絶所を縦横せり。

富樫 寺僧は錫杖を携うるに、山伏修験の金剛杖に、五体を固むる謂れはなんと。

弁慶 事も愚かや、金剛杖は天竺檀特山の神人阿羅邏仙人の持ち給いし靈杖にして、胎藏金剛の功德を籠めり。積尊いまだ瞿曇沙弥と申せし折、阿羅邏仙に給仕して苦行したまい、やや功積もる。仙人その信力強勢を感じ、瞿曇沙弥を改めて、照普比丘と名付けたり。

富樫 して又、修験に伝わりしは

弁慶 阿羅邏仙より照普比丘へ伝わる金剛杖、かかる靈杖なれば、我が宗祖役の小角、これを持って山野を跋涉し、それより世々にこれを伝う。

富樫 仏門にありながら、帯せし太刀はただ物を嚇さん料なるや。誠に害せん料なるや。

弁慶 これぞ案山子の弓矢に似たれど、嚇しに佩くの料ならず仏法王法の害をなす、悪獸毒蛇は言うに及ばず、たとわば人間なればとて、世を妨げ、仏法王法に敵する悪徒は一殺多生の理によつて、忽ちに切つて捨つるなり。

富樫 目に遮り、形あるものは切り給うべきが、モシ無形の陰鬼陽魔、仏法王法に障碍をなさば何を以て切り給うや。

弁慶 無形の陰鬼陽魔亡霊は九字真言を以て、これを切断せんに、なんの難き事やあらん。

富樫 して山伏の出立は

弁慶 即ちその身を不動明王の尊容そんみよお かたどに象かたどるなり。

富樫 頭に戴く兜巾は如何に。

弁慶 これぞ五智の宝冠にして、十二因縁ひだの襜ひだを取ってこれを戴く。

富樫 掛けたる袈裟は

弁慶 九会くえ曼茶羅の柿の篠懸。

富樫 足にまといしはばきは如何に。

弁慶 胎藏こくしき黒色のはばきと称す。

富樫 して又、八つのわらんづは

弁慶 八葉の蓮華を踏むの心なり。

富樫 出で入る息は

弁慶 阿吽あうんの二字。

富樫 そもそも九字の真言とは、如何なる義にや、事のついでに問い申さん。ササ、なんとなんと。

弁慶 九字の大事は神秘しんぴにして、語り難き事なれども、疑念の晴らさんその為に、説き聞かせ申すべし。それ九字真言といッば、所謂、臨兵闘者皆陳列在前の九字なり。將まさに切らんとす時は、正ただしく立たつて齒を叩く事三十六度。先ず右の大指を以て四縦しじきゅうを描き、後に五横ごおうを書く。その時、

急々ききつぎつぎ如律令じりつりょうと呪する時は、あらゆる五陰鬼煩悩鬼ごいんきぼうのうき、まつた悪魔外道死霊生霊、立所に亡なぶる事、霜にえゆに熱湯を注ぐが如く、げに元品がんぽんの無明を切るの大利剣ばくや、莫耶ばくやが剣もなんぞ如かん。まだこの上に

も修験の道、疑いあらば、尋ねに依よじて答え申さん。その徳、広大無量なり。肝にえりつけ、人にな

語りそ、穴賢あなかしこあなかしこ穴賢あなかしこあなかしこ。大日本の神祇諸仏菩薩も照覽ひやくけんあれ。百拝稽首ひやくばいけしう、かしくみかしくみ謹んで申す

と云々、斯くの通り。

富 勸進帳を聞いて疑いが晴れた。しかしついでに尋ねようと思うが、仏教修行の山伏が嚴重な身ごしらえをするのはおかしい。わけがあるのか」 弁 その由来を説くのはわけもない。修験道というのは、胎蔵・金剛の両部を理論として、歩きにくいところを歩き、苦行をして天下泰平を祈る。うちには優しい気持ちを保ち、外に対しては強い姿を示さなければならぬからだ」 富 袈裟を着て僧の姿なのに、頭に兜巾を付けているのはなぜか」 弁 兜巾・篠懸は武士の甲冑と同じ意味の姿だ。だから腰には太刀を帯び、手には金剛杖を持っている」 富 僧は錫杖を持って歩くのに、山伏が金剛杖を持つわけはなにか」 弁 天竺で阿羅邏仙人が持っていた神聖なものだ」 富 それが山伏に伝わったのは」 弁 阿羅邏仙人から釈尊に伝わり、後に、わが国の役の行者に伝わり、それがわが国に広まった最初だ」 富 僧であるのに、太刀を帯びているが、脅しのためか、実際にもものを切るためか」 弁 案山子の弓矢のように脅しのためだが、仏法や国のおきてに妨げをするものは当然切る」 富 形あるものは切れようが、目に見えない魔物は何で切るのか」 弁 目に見えぬ魔物は『咒字真言』で切ったらどんな困難もない」 富 山伏の身なりは」 弁 不動明王の尊いお姿に似せたものだ」 富 頭に付けている兜巾は」 弁 大日如來の頂く知恵の冠り物で、それには『甲二因縁』にあやかつて、十二の襷が付いている」 富 掛けたる袈裟は」 弁 柿色の篠懸はいわば金剛界の曼荼羅と思つてよい」 富 足につけている脚絆は」 弁 胎蔵界の曼荼羅を意味する黒い脚絆だ」 富 穴つ目の草鞋は」 弁 『つも八枚の花びらの蓮の花の上のついているつもりではいている」 富 山伏の呼吸は」 弁 阿吽の二字の心である」 富 『つたい 咒字の真言』とは、どんな意味か」 弁 大事な神秘で、人に語れないが、疑いを晴らすために説明しよう。九字の真言というのは、臨兵闘者皆陳列在前の九字で、魔物を切ろうとするときは、きちんと立つて三十六度齒を叩き、右手の親指で四本の縦筋を書き、次に五本の横筋を書き、そのとき『懃々如律令』と呪文を唱えるときに悪魔も霜に熱湯を注ぐように消え失せる。その功德は『瓔耶の劍』以上の鋭さで、絶対に敵に勝てる。まだ修験道について疑問があつたら答えよう」

仏徒…：仏教を信仰する人。胎蔵金剛…：密教で説く両部法門。大日如來の慈悲と知徳。慈愍…：いつくしみあわれむこと。降魔…：悪魔を降伏させること。外道…：仏教を妨げるもの。弥陀の利劍…：南無阿彌陀仏のようにあらゆる困難を打ち破るような鋭い劍。錫杖…：僧侶・修験者の持つ杖。事も愚かや…：口にするのもつたいない。天竺…：インドの古称。功德…：神仏の恵み。信力強勢…：仏教を信ずる強い力が強く勢いがある。料…：ため。五智の宝冠…：大日如來などが頂く冠。五智は、大日如來などが持つという五つの知恵。九会曼荼羅…：金剛界曼荼羅。八つものわらんづ…：乳(ち)の八つある草鞋。阿吽…：阿は口を開いて出す音、吽は口を閉じて出す音。密教では、この二字を天地一切のはじめと終わりを表す根本原理とした。元品…：根本。無明…：煩惱にとらわれて、一切の真理を知る。とできない状態。莫耶の劍…：中国戦国時代の刀工干将が妻莫耶の髪を炉に入れて鍛えたという名劍。